田代時報

3月号

発行所　田代村公民館
電話　19番
発行責任者　湯ノ谷米吉
編集責任者　小川　兵一
鹿児島市易居町2
印刷所　南日本新聞社印刷局

崇高なる魂の象徴
忠魂碑が建立される

社会教育主事　小川　兵一

終戦後潮の如くおしよせた、浮薄な外来思想によつて、混沌として乱れた国内思想にも動かされず臘忍久しく、蟠をくいしばり乍ら日本人の美点を今日迄護り抜いて来て下さつた、薩の人々の力によつて、祖国日本は破滅の淵からのがれ得て居るとは言え、戦後十年根強くしみ込んだ外来思想の垢を完全に拭い去る迄には、今後相当な年月と混乱が予想され、更に志ある人々の苦難と努力が要請されるでありましよう。

戦後のあやまてる自由思想は、本日の誇りを憑く傷け、日本人の長所である敬神崇祖の念さえも、塵あくたの如く踏みにじり、全く精神的拠り所を失つた人々が、今日迄とれ程有形無形の罪悪を犯し社会悪をつくり上げ、お互い同胞の不幸をもたらして来た事でありましよう。

更に又ゆがめられた自由思想によつて、日本人の最高の美点と称さるべき、奉仕精神は根底からくつがえされ、自分さえ良ければ人や社会はどうでも良いと言う、我利々々根情のみが強くなり、同胞が其の為にとれ程相せめぎ、暗黒社会をかもして来た事でありましよう。

精神的拠り所を失つた、浮薄な経済観のみでは、真に人間の幸福を求め得られるものではないと言う、深慮に立つたものの考え方をする人が、最近少しづつでも増加しつゝある事は、非常に喜ばしい事であります。

そうした尊い精神の顧れとして此の度我が村に日支事変から大東亜戦にかけて戦歿された、殉国の士の御霊を祀る、忠魂碑建立の議が持ち上り、只今村当局や遺族の方々の、なみ〳〵ならぬ御尽瘁によつて、着々此の世紀の大事業が成し遂げられつゝあることは、私達村民にとつてまことに有難い事であり、実に尊い出来事であると思います。

此の事業を物質的面からのみ見るならば、大事業とは言えないでありましようが、今日の如く思想は混沌として乱れ、道義は地に落ちた時代に、忠魂碑を建立すると言うこと事態が既に精神的一大変革であり、其の事が村民にもたらす有形無形な意義はかり知れないものがあり、之こそ永久に歴史の一頁を割さるべき大事業だと思います。

たとえ戦に敗れたりとは言え、一身一家を顧みず、ひたすら御国の安泰を念じ乍ら、雄々しく戦の庭に散つて行かれた崇高なる精神は、近代流の我利々々根情を以てしては到底理解することの出来ない、尊い奉仕精神の権化であり、之が人間最高の精神でなくて何でありましよう。

此の崇高なる精神と魂を、忠魂碑に象徴し讃え祀り、後世に之をつたえ学ばんとするは、美わしい人間性の発露であります。

現今の如く荒ぶきつた時代に、我が村では村人の協力によつて、忠魂碑建立と言う壮挙が、波風をよばずに出来るのであります。此南国遺族会長の話を承ると、今の特性が言い尽されて居り、繰り返して詠めば詠む程、尽きめあちわいの秘められた詩ではありませんか。

更に先生は石碑の台字も揮毫下さいまして、忠魂碑に脈打つ魂と温い血を通はせて下さいました。

簡潔な文章の中に厳しい田代の事実によつて、田代村民が浮薄な時代思潮に根底から汚し尽されて居なかつた事が立証され、心に海軍将兵合せて、二六三柱だそうであります。

尚忠魂碑建立竣工の予定は、三月二十五日で、三十日には招魂墓に於て竣工祝賀の祭典が挙行され、当日は余興として奉納相撲大会も催される手はずが進められつつあります。

全村民の温い物心両面の御協力によつて、意義ある本祭典が盛大に且つとゝこりなく、取り行はれるよう祈念して止みません。

村当局や遺族の方々が一体となつて、忠魂碑建立と言う偉業を遂行して最く姿を眼のあたり見て感謝の余り、つたないペンを取らせて戴きました。

其のついでに忌憚なく申し述べますならば、此の事業は遺族の方々には出来るだけ御心配をおかけせずに、私達一般村民が協力して成し遂げねばならない性質のものであると思います。

之が竣工迄にはまだ色々入費をある事と思いますので、物心両面の出来るだけの協力をしようではありませんか。

若人よ開拓の鍬をふるえ(二)

田代高等学校長　久保田　豊弘

こそこの原理を実践する唯一の教育態であることを考えるわけでありますが諸氏こそは仇き乍ら学ぶと云う革新的教育態の軌道を歩くものとして自覚と誇りを持ち、農学徒としての学びの中核であるホームプロジェクトを通じ農学徒としての学びの場を切開いて行く決意と実践を強く要望したいのです次に道義の問題でありますが紙面の部合上他日にゆずりたい。

◇　◇

橋之口衛生モデルグループ
一年間の歩み

衛生モデル部落指定後早くも、八ケ月実質的活動を起したのが昨年九月村当局の御厚意に依り先進地を視察長所そして改善すべき点等を研究して十月十日を契機に衛生モデル部落指定前と致しますと格段の進歩を遂げつゝありますが、「ハエ」等の撲滅家屋そして宅地等の清掃等指定前と致しますと格段の進歩を遂げつゝありますが、「カ」の撲滅

農村人の誇りをもとう（五）

◆農村振興の癌と治療法

農村人には人が自分よりも良くなる事を妬（ねたむ）ず根情が今日も尚根強く残つて居る、農村振興の推進力となつて、活躍してもらわねば、ならなかつた昔の篤農家と言われるような人々でさえ、歩いて来られた其の足跡をふりかえつて見ると、農業経営上の秘訣等も容易に人には公開せず、考え方が自己中心的で、社会全体の中の自分と言う意識が足りなかつたようである。

社会の中の自己と言う意識が明確になれば、明るく住み良い社会に住む自分と、暗黒社会に住む自分とはどちらが幸福かの判断も明確に出来、自分だけ幸福になろうとしても、社会全体が良くならなければ、結局自分の幸福もあり得ないと言う道理が理解出来るのであるが、過去の農村人にはそれが真に理解されて居なかつたようである。

其の為に農村人には利己的な我利々々根情のみが強くなり、協力性を失い、社会性が乏しくなつて農村を文化から遠ざけて行つたのである。結局農村の発展をはばんだ最大の原因は、農村人の我利々々根情にあると言われて居る。

之を裏返しの言葉で言えば、農村人の、自分さえ良ければ人はどうでも良いと言う我利々々根情を去る事が、農村の発展を図ることであり、農村人に真の幸福をもたらすことだとも言える。

「利己主義を去る」言葉ではいと易いが、之を実際に行うと、なるとなかなか難かしい、然し此の難しい一事を是が非でも為し遂げなければ、農村人には、何時迄たつても真の幸福はめぐつて来ないであろう。例え形は幸福に見えるものがあつたにしても其れは空虚なものでしかない。

然らば其れをどのような方法で為し遂げて行くかが問題であるが我が村では之をグループ活動に依つて為し遂げて行こうとして居るのである。其れは本年度村の努力目標として取り上げられ、去る二月部落懇談会に於て説明して、巡回した通りである。

グループ活動に依つて漸次村民に協力性が芽生え、社会性が培われ、農村振興の癌（がん）とも言われる、自分よがりな利己主義が廃除された時、我が村は隆々として栄え行く、物心豊かな明るい村として蘇るであろう。其の意味でグループ活動が強力に推進されるか否かは、其れが其の侭我が村の進運にかゝつて居ると言つても過言ではあるまい。

都会人も農村人も、自己が可愛い心情には変るべきはずがない、其れなのに都会人よりも農村人に我利々々の利己主義が強いと言うのはどうした事であろう。

其れは都会人に比較して農村人には、眼に見えない無形なものを見る教養の眼が不足して居ると言える。難かしい学問的な言葉で言うならば、力学的な相対性原理が真に理解されて居ないからである試みにたらいに水を入れて手でかき廻して見たら其の原理は解ると思う。

たらいの水を両手で手元にかき集めようとしても、水は自分の意に反して、反対がわに流れ去つてしまい、両手で向うに押せば手元に帰つて来る。丁度之と同じ力学的な肉眼には見えない作用が、人間の日常生活の中にも、必ある事を知るのは学問から得た教養である。

水の動きは教養は無くとも肉眼で見る事が出来るが、人間生活の中の水の動きに等しい、力学的な作用は直接肉眼には見えないから教養に依つて開く心の眼でなければ見えない。

人間生活の中にある肉眼に見えない力学的な作用を見る心の眼を養つて居ないから、農村人は全部とは言えないが、大半は自己の可愛さの余り、水を手元にかき集めるような事をして、かえつて自らを不幸にして居るのである。

商法にしてもやはり同じ事が言える。我利々々根情から出発した商人が永久に栄える道理は何処にもない、若し仮に其れが一時栄えたにしても其れは長つづきはしない商法も自分の営業の成り立つ様にはしながら、出来るだけお客を本位にして行く商店ならば、急に良くならなくとも、最後は必ず栄えるのは、力学上から見て当然だと言える。

今後の農村人は教えつ教えられつするグループ活動を真剣になつて考え、之を通じて人間生活の中に作用する、力学的な原理を理解する力を養い、水を手元にかき集めるような利己主義根情を去り、強きものも弱きものも、共々に手に手を取つて助け合つて行く体制を整えねばならない。

其の体制が田代に整つた時初めて我が村は栄えて行く村として蘇り、村民にも真の幸福が訪れ、若い娘も喜々として止まる、明るく住み良い理想の村が出来上ることを信じて止まぬ。

グループ活動が其処迄到達するには、今後幾多の難関があり、前途は決して坦々たる大道でなく、茨の道であろうが、其の茨の道にもひるまず、是が非でも之を為し遂げなければ、我が村は何時迄たつても、若い娘を喜んで止め得ない、暗い住みにくい村としての城から脱出し得ないであろう。

世界一暗い国デンマークを世界一の明るい農業国にまで、つくり上げたものは実にグループ活動の力であり、今日では農村を網羅した精同化によつて、ゆるぎなき基盤をつくり上げて居るのである。

社会教育主事　小川兵一

万物の霊長

東中郡　田原迫　保

昔から人間は「万物の霊長」であるという諺がありますがこれは申すまでもなく「人間は人間以外の動物にないところの「考える力」すなわち「理性」をもつているということでありましよう。この外「意思」や「良心」を備えておりますつまり人間はこの様に他の動物に優れた特徴をもつているのでありますところが往々世間では「彼奴は畜生げたものんのひともねが」という言葉を聞かされるものでありますが終戦後の様な社会人心の極度にすさんだ俗世間に於て特に聞かされたものでありますが年月の経つとともに世の中もだんだん落付きを取り戻し浄化される従いこのようなことはも自然と影をひそめつつあることはまことに結構なことと思います。豊かな農村をつくり住みよい郷土を築くためには先ずお互いが人間として進むべき方向を誤らないことすなわち人間らしい生活をするということが大切なことと思われます、人間らしい生活といつても経済的な面から見た単純な場合と人間としての根本的な定義に基く場合とがあるのでないかと思います、御承知の通り現在新聞紙上を賑わしている総評の賃上闘争に於てはその目的の中に「人間らしい生活をするため」云々とありますがこのような一般大衆の迷惑を顧みざるところのゼネスト的行為に対し吾々が卑屈な目で この「人間らしい 生活」のことばをみるならば全く経済的生活を主体としたものとは思えないのである。もつとも人間が生存してゆく上にだけは経済的条件を必須とすることは申すまでもないが然し国民の範となり指導的立場にあるべき筈の公務員等に於て国民全般的な利益を度外視しなお其の本質を忘れたかの如き行動は唯一方的にしかも独善的に傾いたところの唯物的な「人間らしい生活」に外ならぬものと思われるのであるが、ここでは到底明るい社会秩序も生れて来そうにありません。

◎理性　人間が自分の行為の善悪を区別したりいろいろ物事を考えたりすることは総て精神力の働きつまり理性でありますが吾々はこいろいろ話が脱線しましたが要するに吾々は自然に与えられた特点と使命を僅か百年足らずの生涯のうちに如何に利用するかということが大切だと思いますがこれには相当な努力が必要かと思われます

◎良心　吾々がどんな暗い夜でもあかりになるものさえ持つていたら易々と歩けるようなもので人間が世渡りをする上に於て正しい方向に向うためには「良心」がその案内役をしてくれるのでありますが若しこの良心が無かつたら一体世の中はどうなるものでしようか良いことは喜び悪いことは咎めるという「良心」を皆な一人々々が生涯の指導者としてそのみちびきに従つたら世の中はどんなに明るいものであろうが、其の茨の道にもひるまず、是が非でも之を為し遂げなければ、我が村は何時迄たつても、若い娘を喜んで止め得ない、暗い住みにくい村としての城から脱出し得ないであろう。

世界一暗い国デンマークを世界一の明るい農業国にまで、つくり上げたものは実にグループ活動の力であり、今日では農村を網羅した精同化によつて、ゆるぎなき基盤をつくり上げて居るのである。

社会教育主事　小川兵一

申歳と結婚

もう迷信の時代ではない

東京の三宅坂にある或る結婚式場ではこんな話があつた。

目黒区に住むある中流家庭の老夫婦が新年早々に訪れて末娘の結婚式をぜひ七日にやりたいが式場の都合はどうだという。

「七日はちようど土曜日にあたりますので昨年からの申込みでいつぱいでございますが…」係員がそう説明すると

「では、十二日はどうか」

という。調べてみるとこの日もいつぱいでどうにもならない。ついで月末卅日の大安日を調べてみたが、これも満員。老夫婦はたとえ卅分でもというのだが、その時間が空いていない、とうとう一たん断念して引さがつた。老夫婦のいうところによると、五人兄弟のなかで一番かわいがつていた末娘の結婚式のことだから吉日でなくては絶対いかんというわけだ。しかもそれは年明け前、つまり節分前にかきるというわけである。おサルの縁起を大かつぎにかつぎていた。それくらいならば昨年のうちになぜ挙式しなかつたかというは縁談が昨年十二月はじめにきまり来年は申歳だからというところから年内の結婚式を急いでいたがこの末娘運わるく風邪のためにできなかつたのだという。そこで一月の大安を調べてみたが、一月は大安が七、十八、廿四、卅の四日しかない。二月の大安は五日となつて節分をすぎてしまう。しかも一月の大安のうち十八日は「きのえさる」でおもしろくないというのだ。

驚くべき迷信ぶりだが、考えてみるとこの老夫婦がえらんだ一月中の吉日が全部満員だということはこの老夫婦のような迷信組がまだまだたくさんいるためだとも考えられる。式場の方でいまさらながらあきれていた。こうなるとむしろ笑い話の類だろう。しかし縁起をかつぐおめでたき人々がまだまだたくさんいるのはあらそえない。ところみに東京都内の有名結婚式場に節分前の結婚ラッシュぶりをみると、まず明治記念館（千駄ケ谷）では申込みが昨年の五割増、連日二十組が挙式という繁昌ぶりである。東京大神宮（飯田町）でも昨年一月の挙式数百組にくらべてことしは一月十四日までにすでに百八十余組、一月中では二百組を突破するという。また東京都結婚会館（新宿区簞笥町）でも昨年同期の一・五倍とくに大安、友引は一日二十組できびすを接し結婚式の時間もそのため一組廿五分を廿分間に短縮したそうだ。

結婚は愛情から

だが、ここで気をつけてこの縁起組を分析するとこれは階級では中流以上は大部分、それも中年や老人の世話やきが指図しているところがほとんどというならば昔気質の古い時代の生活慣習が身にしみついている人が音頭をとつている家庭や社会に多い。東京都結婚相談所で最近の結婚申込者に〝申歳〟と結婚〟の考え方をそれとなくきいたところ、若い人たちは変な迷信について意見をきかれたのを迷惑そうに顔を赤らめている人もあれば憤然として〝つまらない迷信ですね〟といつている人もある。ここである若い男性（28）にきいた意見はどうだ。

「おサルの歳だから去るなどというのはまつたくバカげた話で結婚は当人同志の愛が決定するものですよ。第一申歳がわるいとか申の日がわるいなどというていたら結婚するときがありません。またサルだつて不幸を去ると思えばいゝし、エテ（よい方）に帆をあげるということだつてあるじやありませんか。さらにサルがわるいというならイヌだつてわるいし、単にゴロ合せの迷信だと思いますね」

ざつとこんな調子である。公務員の福祉施設となつている「虎の門共済会館」ではサラリーマンの金をかけない新生活運動実行組の結婚式がふえているが、申込者に申歳というエト観念はほとんどみられないそうだ。ここではおサルも気にかけない三、四月も例年のとおり、少しも数が減つていない。若い人の層はこんな迷信とはつきり絶縁していることがわかる。

代でわない　もう迷信を尊ぶ時

結論として各方面の話をまとめてみると〝申（サル）歳と結婚〟で縁起をかつぐのは都会には比較的少なく、あるとすれば地方の町村などで、それも若い人たちの自由意志によらない結婚などに多いのではあるまいかということだつた最近簡易な機関としてサラリーマンなどに好評の新宿結婚相談所では

「申歳の結婚はわるいなどといつ人はいまの若い人にはもうありませんね。それで結婚の日取りなども、歳や日より月給日の翌日とか土曜とか、おもに経済的な意味や余暇を生かすという考え方で合理的です。ただ卅才すぎの人などにふだん迷信を軽べつしていながら、いざ結婚式の日どりとなるとなるべくいい日に、という考え方はまだありますね」

といつていた。まだ結婚に対する古い観念や迷信信奉が古い年代の人たちに尾をのこしている半面、若い世代には新生活運動の潮がひたひたとよせているのがわかる。

うれしいなあ

私たちはもうすぐ小学一年生

寒い寒いと云つているうちにことよみの上では春はもう一足先に来ています。私たちはもういくつねると学校でしよう。かぞえて見ましよう。お父さん、お母さん、兄さん、ねえさんのおしえられることをよくきいて体を大事にして四月からは元気で学校に行きます。先生まつていて下さい。

次に書きましたのはお友達の名前です。

田代小学校

下部落、平岡敏尋、原咲子、姫城千津子、岩下武布、小牧静子、馬場部落、上田村子、小牧悦男、平山久美子

東ノ原部落、笠木幹雄、野田安申、栗脇徹、福増京子

長谷部落、徳永良一、石井原正博、前之園純二、油木田義美、土元和子

西中郡部落、徳永芳文、徳永和郎、迫田澄子、井手博美、堀トミ子、鶴園なつよ、西哲雄、長岡トキ、木場悦子、江口まり子、久保田長典、園田利春、四村邦徳、篠原恒子

東中郡部落、篠原増子、鶴園いく子、上高原貴、郷司山斗久子、橋ノ口部落、中原実、中野正文、中野さよ子、松山利子、篠原けい子、篠原ユウ子、白桃なみ子、内村涼子、松元孝子、木原謙治、中村部落、田中道子、宮園和男、宮園唐男、入船敏郎、宮園みき、宮園悦子

山下部落、湯ノ谷妙子、湯ノ谷正巳、湯ノ谷文子、牧原和美、福増充、中園涼二、岩下芳文、山下道男、山下秋義、門前博文、松山利秋

岩崎部落、小梅技敏郎、岩崎千津子、杉野フサエ、岩崎れい子、上園則雄、毛下政博

東木部落、竹下良二、上田利巳、上吹越秋美、内村とし子、槌島ひろ子、別府まり子、宮園さゆ

鶴園部落、清水義秋、小川和代、小川ヨシ子、水流泉、内園正武、山田豊二、瀬之口ちよう子、倉元道男、富尾美千代、鶴園孝行、舞原正久

区外、柿迫俊一、森崎三佐代、坂元益子

原沢部落、山下やよ、福永洋子、榎木政幸、永田憲治、早瀬より子

池野部落、宮原次男、貫見加代子、水流洋子、瀬口正、中園けい子、浜川明美、川路とみ子、宮原秀幸

瀬戸口部落、浜田芳博、加治佐好子、池水ちづ子、瀬戸口たえ、瀬戸口良一、山之内久人、茅野良子

猪鹿倉部落、元丸いつ子、川路リツ子、猪鹿倉ツユ子、猪鹿倉恩俊、山元さき子、川路博樹、猪鹿倉いくよ、下柳田ノブ子、川路陽一

花瀬宮行山部落、山内武治、山田力雄

大原小学校

西大原部落、白石達朗、大原光広、中野シゲ子、原田寿子、東郷一雄

東大原部落、帖地よし子、村山世希子、串町ゆみ子、大原和洋、寺園ふち子

中尾部落、横原のり子、佐藤敏博、坂元鎮幸、松ノ下緑、山野義信、横原常夫

新田部落、釘田ちづ子、鎌田利子、華尾美寿夫、中島五男、村山宮子、那須照次、大柏根京一

鵜戸野部落、原沢勝広、中島光政、宮原正文

久木野部落、宮元律子、春崎光江、中村洋子、浜川恵、松元忍

盤山部落、町尊光、竹かず子、基昭夫、茶畑吉宗、土持千恵子

富田部落、深水栄子、大園政広、山元民子、野口すみ子、野口徳夫

内之牧部落、梅元より子、山下さわ、池田シゲ子、岩切正光、中野俊明、宮田ヒミ子

内之牧官行山部落、那須義和、中村よう子、小玉由男、命苦ヤエ子、黒木五男、益満実、中村正郎